

ラリック・エレガンス

宝飾とガラスのモダニティ -ユニマツコレクション-

2019年11月30日(土)~2020年1月27日(月)

休館日 2019年12月28日(土)~2020年1月1日(水・祝)



十字架(天使、アルファとオメガ) 1896-1898年頃

開館時間:午前9時30分~午後5時30分(入館は午後5時まで)

入館料:一般1,000円(4枚セット券3,000円)/大学生800円/高校生500円/中学生以下無料

主催:公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム、毎日新聞社

後援:中日新聞社、読売新聞社、朝日新聞社、NHK津放送局、三重テレビ放送 協力:ユニマツグループ

関連イベント

記念講演会

12月8日(日) 午後2時~

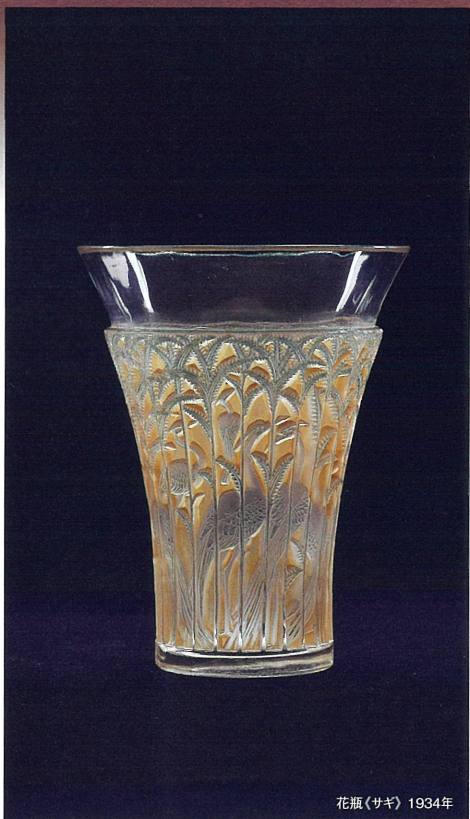
講師:池田まゆみ氏
(北澤美術館主席学芸員・
美術工芸史家)

ラリック・エレガンス

宝飾とガラスのモダニティ
-ユニマットコレクション-

その洗練された造形から、日本でも多くのファンをもつジュエリー作家・ガラス工芸家のルネ・ラリック(1860-1945)を紹介します。

本展では、様々な事業を展開しているユニマットグループが所蔵するラリック・コレクションより、19世紀末から20世紀初頭の貴重なジュエリーをはじめ、晩年までのガラス作品を展観します。ラリックは当初、アール・ヌーヴォーの宝飾デザイナーとして活躍しました。彼の生み出したジュエリーは大変な人気を集め、とりわけ1900年のパリ万国博覧会で大きく注目されました。20世紀に入り、香水瓶のデザインと製造を足掛かりに、ガラス工芸家としての道を歩みはじめます。現在も続く、ラリック社の設立もこの頃のことです。1925年のパリで開催された現代装飾美術産業美術国際博覧会(通称:アール・デコ博覧会)では、自社パヴァイリオンを出展し、まさにアール・デコを牽引する存在として世界中にその名を轟かせました。日本との関係も深く、1932年に旧皇族の朝香宮邸(現・東京都庭園美術館)のガラス製レリーフ扉やシャンデリアなどを手掛けています。宝飾とガラスのフィールドにおいて、アール・ヌーヴォーとアール・デコという2つの様式を生み出したラリックの優雅な作品世界をお楽しみください。



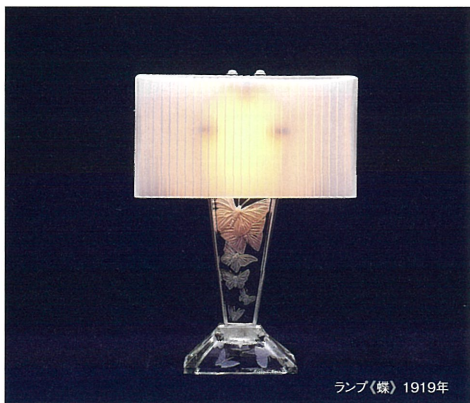
花瓶《サギ》1934年



テーブルセンターピース(火の鳥)ブロンズ台付 1922年



扇と櫛《落ち葉》1899-1900年頃



ランプ《蝶》1919年



電気置時計《2人の人物》1926年



花瓶《オレンジ》1927年



カーマスコット《勝利の女神》1928年

次回展示のお知らせ

2020.2.1(土) ▶ 3.29(日) 歌麿とその時代展 黄金期の浮世絵 美人画と役者絵

錦絵が最も華やかに展開した天明・寛政期(1781~1801)、この浮世絵黄金期には喜多川歌麿(?1753~1806)をはじめ、東洲斎写楽(生没年不詳)や歌川豊国(1769~1825)など、様々な絵師が目覚ましい活躍を見せました。本展では歌麿とその弟子をはじめ、鳥居清長や鳥文斎栄之、写楽、勝川派、歌川派など、個性豊かな絵師らによる美人画と役者絵に肉筆画を含め約130点を展観します。

■お車をご利用の場合 / 東名阪「四日市I.C.」より国道477号(湯の山街道)を湯の山方面へ約6.5km。■無料駐車場有り(普通車100台、大型バス駐車可)
■電車をご利用の場合 / 近鉄「四日市駅」下車、近鉄湯の山線に乗り換え約25分。「大羽根園駅」下車、西へ300m。■全館バリアフリー、車椅子常備



公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム 〒510-1245 三重県三重郡菟野町大羽根園松ヶ枝町21-6

Tel.059-391-1088 Fax.059-391-1077 E-mail office@paramitamuseum.com

http://www.paramitamuseum.com Facebook www.facebook.com/paramitamuseum Twitter @paramita_muse

パラミタミュージアム 検索